



前期終了！後期が始まります！

今年もものすごく暑い日が長く続いていましたが、朝晩の空気が冷えてきて、日中も随分過ごしやすくなってきました。ようやく秋が来た感じです。学業にもスポーツにもよい季節です。「早寝・早起き・朝ごはん」を実践して、元気に過ごしてほしいと思います。子どもたちの学が意欲をさらに高め、一人ひとりの力を伸ばしていけるように全職員で教育活動に取り組んでいく所存です。

さて、今日は担任から「わたしのあゆみ」(通知表)を渡しました。これは頑張ったことをほめて、苦手だったことに気づいて後期に頑張るためのメッセージです。お子さんの成長を讃えて、さらなる飛躍を目指して励ましてあげてください。

本日で2025年度の前期が終了し、来週火曜日から後期が始まります。これからは文化祭準備や社会見学など、たくさんの行事が控えています。子どもたちは引き続き頑張ってくれることと思います。

令和7年度学力学習状況調査より

令和7年度全国学力学習状況調査の結果から、成果と課題を明らかにして、これからの取り組みについて検討を行いました。教員の指導方法の工夫や改善を通じて、今後の教育に生かしていきます。

全国学力学習状況調査

「教科に関する調査」(国語・算数・理科)と「学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査」(児童質問紙)があります。

全国平均から見た今年の傾向について(成果○ 課題●)



<教科に関する調査結果から>

国語では

- 本校は、全国及び三重県の平均正答率より高いという結果でした。(14問中平均正答数 11.9)
- 学習指導要領の内容別にみると「知識・技能」の「言葉に関する事項」が高いです。また、「思考・判断・表現」においても、県・全国の平均を上回りました。記述式・短答式の正答率が高いです。
- 無回答率(空欄のまま)は低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見られます。

算数では

- 本校は、全国及び三重県の平均正答率より高いという結果でした。(16問中平均正答数 10.8)
- 学習指導要領の領域別にみると「変化と関係」が最も高いですが、どの領域も平均を上回っていました。
- 無回答率(空欄のまま)は低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見られます。
- 「分数」の領域の一部は低いです。通分や、分数の計算の説明などで苦手な様子が見られます。
 - ・生活に即した文章問題を読み解き、立式することに課題があります、
 - ・図形について五角形の分割や面積の求め方など、問題文が複雑になると正解を導き出すことに課題があります。

理科では

- 本校は、全国及び三重県の平均正答率より少し高いという結果でした。(16問中平均正答数 10.5)

- 学習指導要領の領域別にみると「エネルギーを柱とする領域」が最も高いですが、どの領域も平均を上回っていました。
- 無回答率（空欄のまま）は低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見られます。
- 「生命」の領域の一部は低いです。植物の観察に関する問題などで苦手な様子が見られます。
- 「水の温度や体積」に関する問題の一部が苦手なようです。



<児童質問紙調査の結果から>

学校生活・授業について（そう思う・どちらかといえばそう思うの肯定的な意見）

- 「学校に行くのは楽しい 90%」「先生はあなたのよいところを認めてくれている 100%」「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている 100%」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか 100%」「友達関係に満足していますか 100%」「学級の友達との間で話し合うことを通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている 90%」と感じている子の割合が高いです。
- 「国語の勉強は好き 40%」「読書は好き 50%」「算数の勉強は好き 50%」が低くなっており、それぞれの勉強への意欲付けや好きになるような手立て、内容を工夫することが必要です。活字を読むということは文章の読み取りにも活かせる作業です。

家庭生活について

- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている 90%」の割合が高いです。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日に1時間以上勉強をしている 70%、30分以上1時間以内 30%」
- 「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に1日に1時間以上勉強をしている 50%」
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日に30分以上タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている 40%」の項目が、低くなっています。

自分自身のことについて

- 「自分にはよいところがある 100%」の項目の割合が高く、自尊感情の高まりが見られます。「人が困っているときは進んで助けている 100%」「人の役に立つ人間になりたい 100%」など、社会に貢献する意識も高いといえます。

課題の解決に向けて



子どもたちが学ぶことの楽しさや充実感が得られることが「わかる授業」の一環と考え、その充実に向けて学校も研修を重ねていきます。国語に限らず、以下のように様々な教科で取り組んでいきます。

- ◎子どもたちが自分で文を読み、その中身や、問われている内容について説明する体験の増加
 - ・問題文の読み取り方：誰が、何をしているか、何について書かれているかなどを把握させる。
 - ・文中に出てくる資料名とその資料から読み取れる内容をとらえる練習。
- ◎書く力をつける活動の重視
 - ・問いや条件に合わせて何をどう書くか考えてから文章化する学習活動の強化。
 - ・書いたものを必ず自分で見直すことの習慣化。（間違いや不足に自ら気づく力の育成）
- ◎基礎学力の定着
 - ・教科書の風習やプリント、「まな Viva!」やドリル学習に加え、タブレット等のICT機器を利用した個別最適な学習の推進と補充学習の充実。
- ◎家庭学習の充実
 - ・家庭読書の取り組みへの呼びかけと「早寝早起き朝ごはん」の推進。
 - ・「10分×学年＋10分」を目標に、タブレット機器等の利用も含めた家庭学習を推進。



※お知らせ ※松阪市立柿野小学校のホームページを公開しています。
HPアドレスです。 <https://kakino.iinan-matsusaka.com/>
「松阪市立柿野小学校」で検索してください。
左のQRコードを読み取っていただくと直接HPに飛びます。